

平成27年度 南海トラフ地震（東海地震） 県民意識調査結果の概要

この冊子は、平成27年12月に県内にお住まいの方2,000人を対象に実施した「南海トラフ地震（東海地震）についての県民意識調査」結果の主要項目をまとめたものです。



平成27年度地域防災訓練

- H23.3.15 静岡県東部の地震
- H23.3.11 東北地方太平洋沖地震
(東日本大震災)

- H21.8.11 駿河湾を震源とする地震
- H20.6.14 岩手・宮城内陸地震

- H19.7.16 新潟県中越沖地震
- H19.3.25 能登半島地震

- H16.10.23 新潟県中越地震
- H15.9.26 十勝沖地震

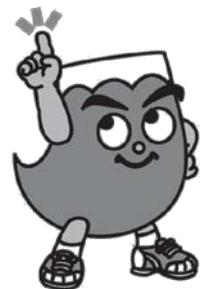
- H13.4.3 静岡県中部の地震
- H13.3.24 芸予地震
- H12.10.6 鳥取県西部地震

- H7.1.17 兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）

Q あなたは現在、南海トラフ地震（東海地震） にどの程度の関心を持っていますか。



静岡県周辺では大規模地震の発生が懸念されています。
地震対策をもっと身近な問題としてとらえ、
「自らの命は自ら守る」ための備えを皆で実践しましょう。



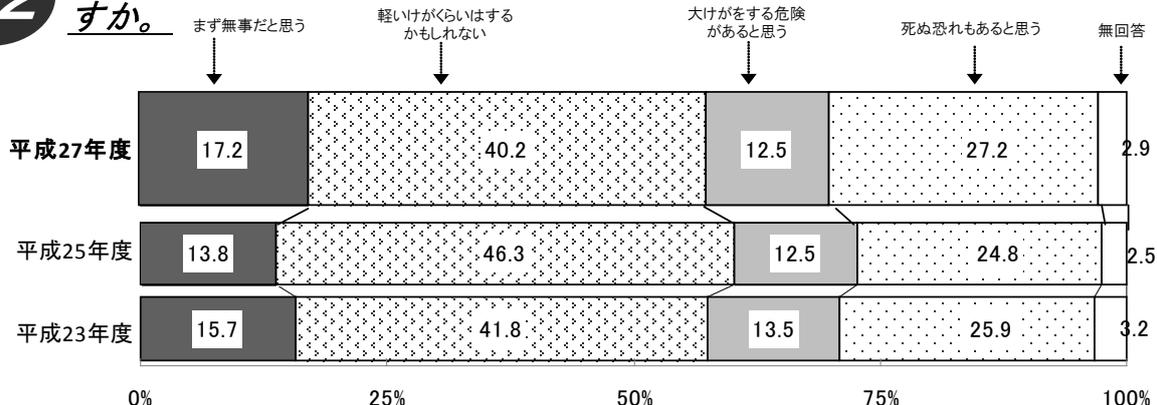
- 調査区域 静岡県内30市町
- 調査対象 選挙人名簿から抽出した男女
(20歳～69歳) 2,000人
- 回収率 47.0%
- 調査方法 郵送調査法
- 調査期間 平成27年12月13日～平成28年1月5日
- 調査実施機関 アイティ・インターナショナル(株)

- この中の数字は、回答があった941人を100%として集計した比率です。
- 集計の都合上、四捨五入してあるので、合計100%にならない場合があります。
- 複数回答の場合は、合計が100%を超えることがあります。
- 「無回答」は設問事項について回答がなかったものをさします。
- 調査対象者には、南海トラフ・駿河トラフ沿いの大地震や相模トラフ沿いの大地震など静岡県で甚大な被害の発生が懸念されている大規模地震をイメージした回答を求めています。

作成：静岡県危機管理部危機情報課

大規模地震が発生した場合は、 大きな揺れと津波による甚大な被害が予想されます。

Q2 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。



●静岡県第4次地震被害想定（平成25年公表）

静岡県では、従来の想定をはるかに超えた巨大な地震と津波が発生した東日本大震災の教訓を踏まえ、12年ぶりに被害想定を見直し、「静岡県第4次地震被害想定」を策定しました。今回の被害想定では、駿河トラフ・南海トラフ沿いと相模トラフ沿いのそれぞれの地域について、二つのレベルの地震・津波を想定しました。



レベル1の地震・津波

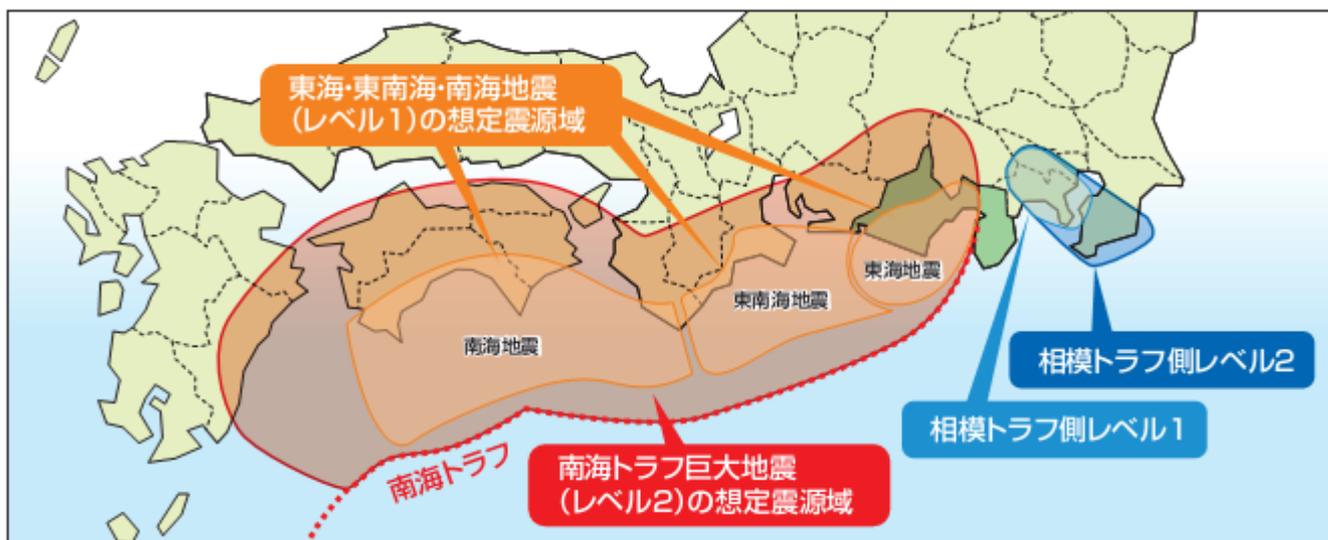
発生頻度が比較的高く（駿河・南海トラフでは約100～150年に1回）、発生すれば大きな被害をもたらす地震・津波

レベル2の地震・津波

発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波

第4次地震被害 想定概要	駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震		相模トラフ沿いで発生する地震		
	レベル1	レベル2	レベル1	レベル2	
マグニチュード	8.0～8.7程度	9程度	8.0程度	8.2程度	
震度7の地域	344km ²	344～732km ²	42km ²	109km ²	
最大津波高	11m	33m	7m	18m	
人的被害 (死者数)*	地震	約16,000人	約105,000人	約3,000人	約6,000人
	うち津波	約9,000人	約96,000人	約2,900人	約5,700人

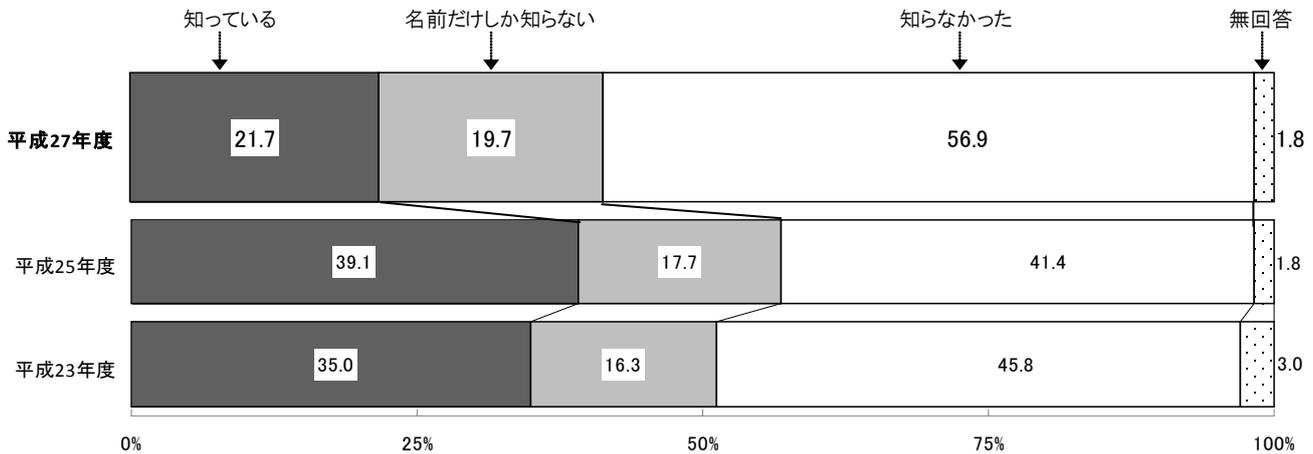
※冬・深夜、津波からの早期避難率が低い場合



阪神・淡路大震災の死者の 約8割は家屋の倒壊等による圧死でした。 自宅の耐震診断を行い、安全性を確認してください。

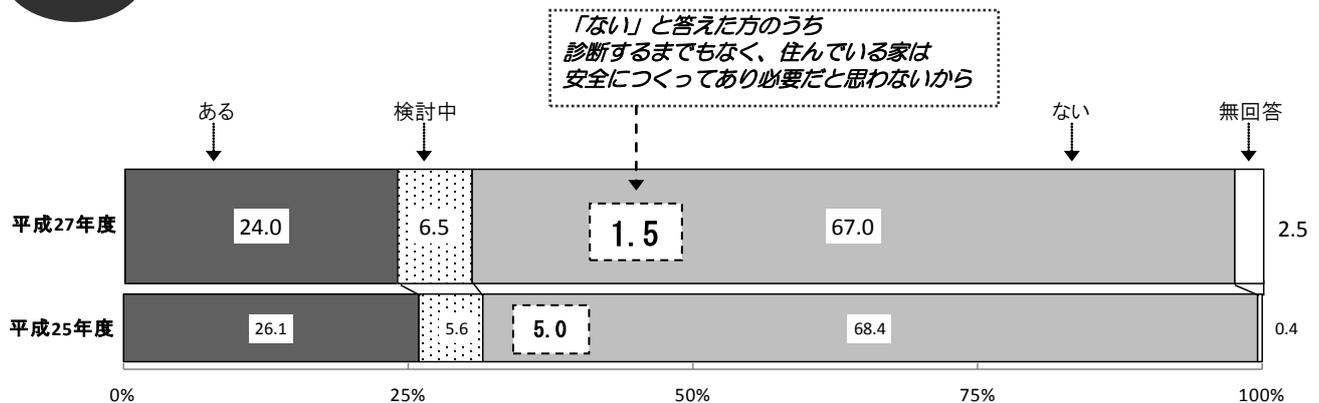
Q3-1

県では、木造住宅の耐震化促進事業「プロジェクト“TOUKAI-0”」を推進しています。この事業の内容は、①無料耐震診断、②耐震補強計画策定への補助、③耐震補強工事への補助の3項目からなっています。このことをご存知ですか。



Q3-2

耐震診断をしたことがありますか。（昭和56年5月以前建築の木造住宅居住者対象）



阪神・淡路大震災では、昭和56年5月以前に建築された旧耐震基準の木造住宅に大きな被害が出ました。地震で大切な命を失わないためには、地震で倒壊しない住宅にする必要があります。

そのため、静岡県では市町と連携して、木造住宅の耐震化を促進するプロジェクト「TOUKAI(東海・倒壊)ー0(ゼロ)」を推進しており、建築士などの専門家による耐震診断を無料で受けることができるほか、耐震補強工事費の助成なども行っています。

耐震補強工事には 補助金が出ます。

専門家による耐震診断により、「倒壊する可能性が高い」、「倒壊する可能性がある」と判定された旧耐震基準の木造住宅を耐震補強工事する場合には、市町から補助金が出ます。



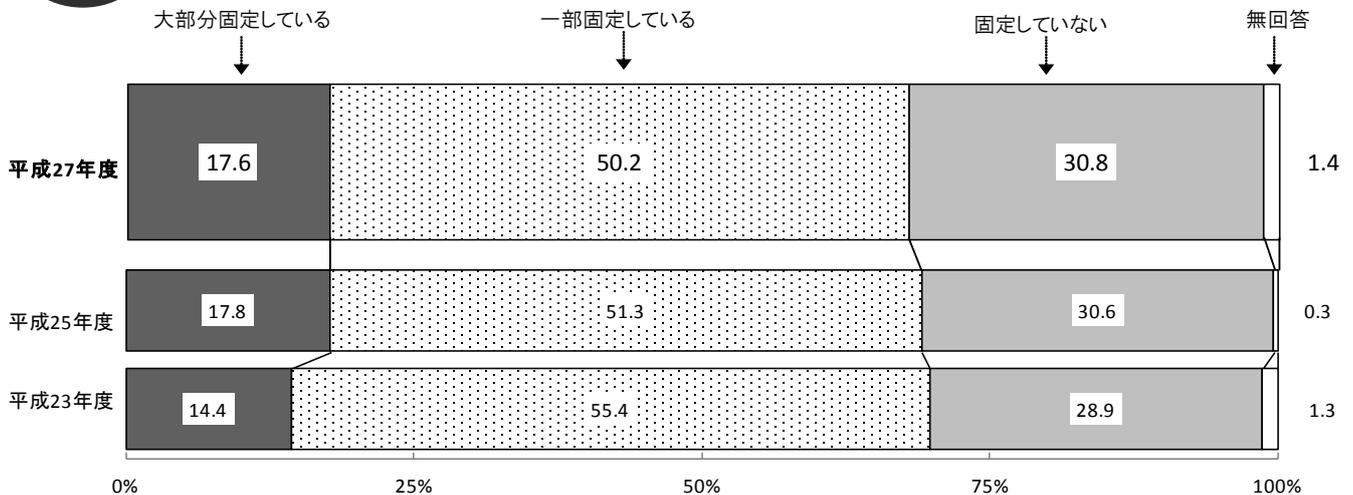
(平成19年 新潟県中越沖地震の被害)

詳しくは各市町の建築指導担当課
又は県建築安全推進課（054-221-3320）までお問い合わせください。

地震発生時に転倒・落下する家具や家電製品は 非常に危険な凶器となります。 自宅の家具類の固定は急務です。

Q4

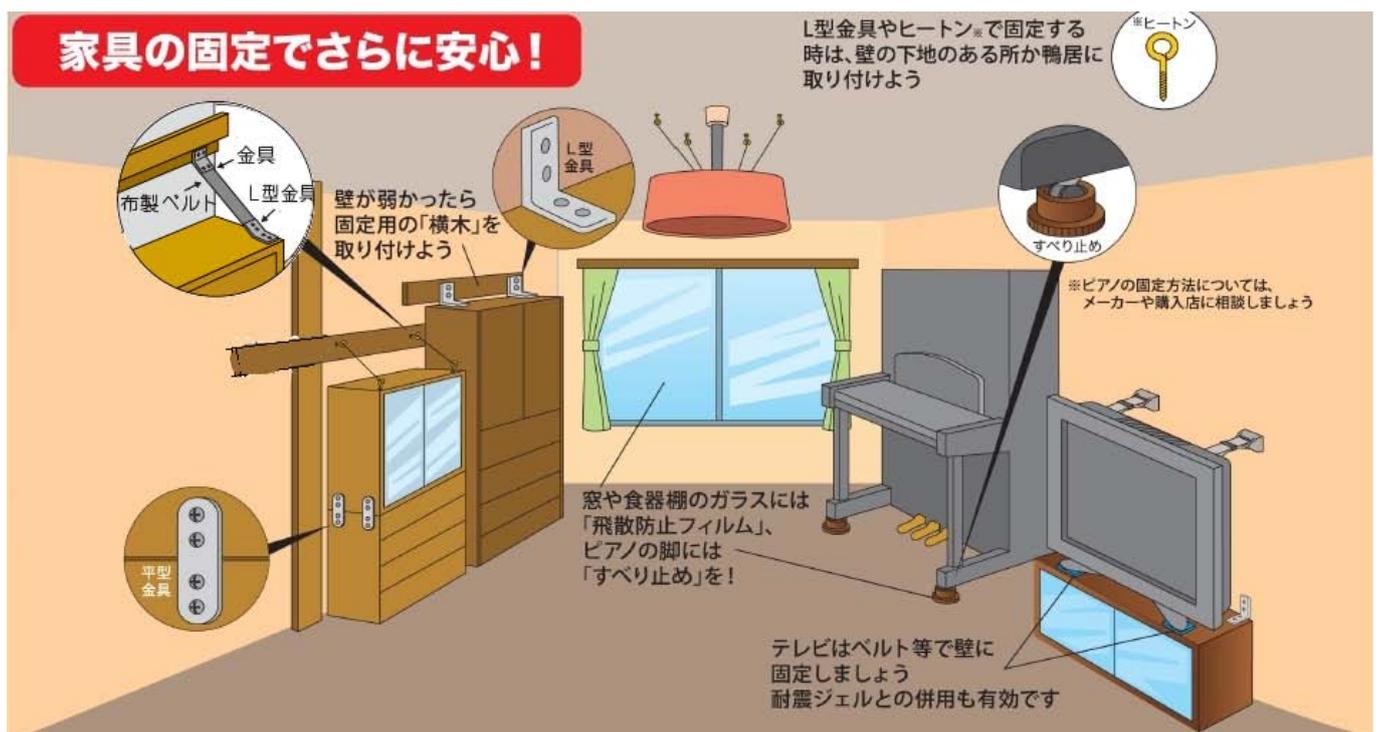
地震に備えて家具類の固定をしていますか。



確認しましょう

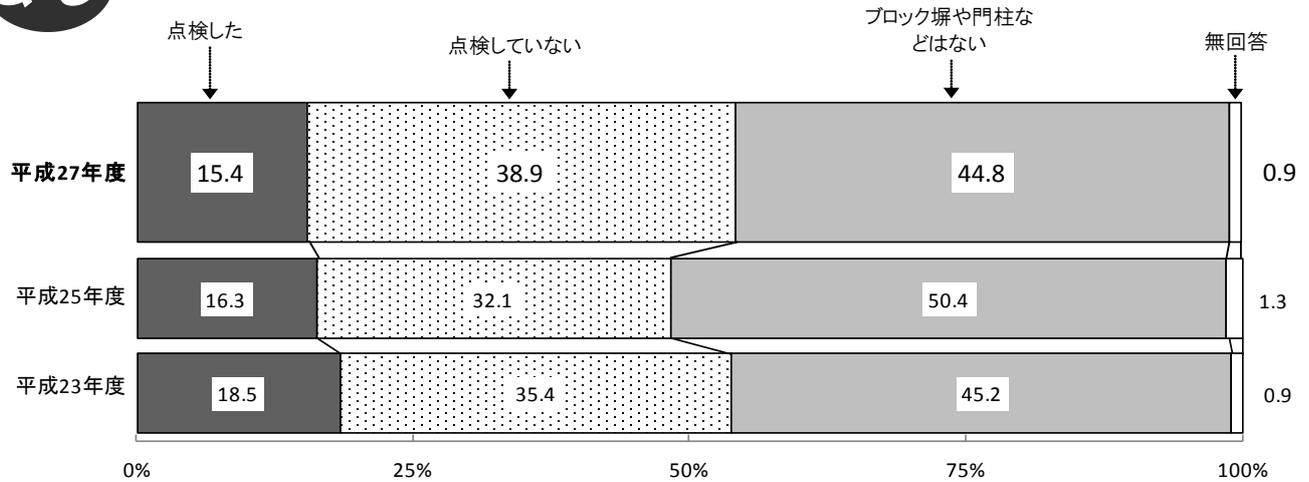
- ・背が高く重い家具は寝室に置かない。
- ・重い荷物は高いところに置かない。家具の上にも置かない。
- ・家具の配置を考えて安全なスペース、避難経路を確保。

家具類の固定方法（例）



石塀・ブロック塀が倒壊すると通行人に被害をおよぼす可能性があります。必ず点検してください。

Q5 ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。



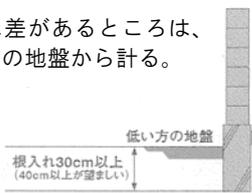
ブロック塀の5点検 (以下の5項目について点検しましょう。)

① 基礎の根入れはあるか

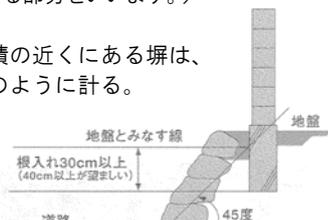
適・不適

コンクリートの基礎は、地盤から30cm以上根入れされている必要があります。まわりを掘って調べて下さい。
(根入れは40cm以上が望ましい)
(「根入れ」とは、基礎のうち土の中に入っている部分をいいます。)

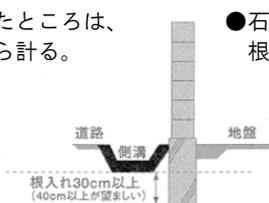
●地盤に差があるところは、低い方の地盤から計る。



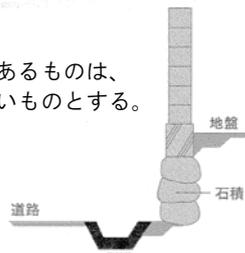
●石積の近くにある塀は、図のように計る。



●側溝に沿ったところは、側溝の底から計る。



●石積の上にあるものは、根入れがないものとする。

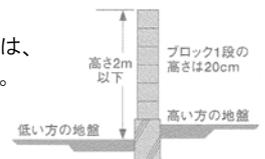


② 塀は高すぎないか

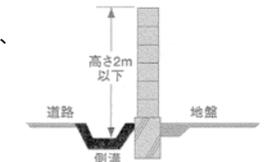
適・不適

塀の高さは、地盤から2m以下かどうか調べて下さい。

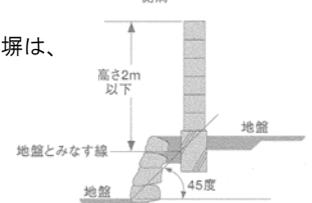
●地盤に差があるところは、低い方の地盤から計る。



●側溝に沿ったところは、側溝の底から計る。



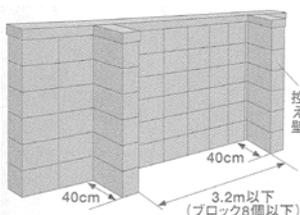
●石積の近くにある塀は、図のように計る。



③ 控え壁はあるか

適・不適

- ① 控え壁は塀の長さ3.2m (ブロック8個) 以下ごとにあるか
- ② 控え壁の長さは 40cm 以上あるか

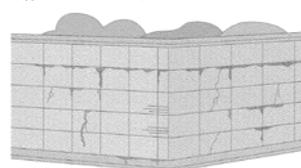


④ 塀の傾き、ひび割れはないか

適・不適

塀が傾いたり、ひび割れていないか、また鉄筋が錆びていないか

鉄筋の入っているところに沿ってブロックが茶色になじんでいたり、はじめていたら、中の鉄筋が錆びています。



⑤ 塀に鉄筋が入っているか

適・不適

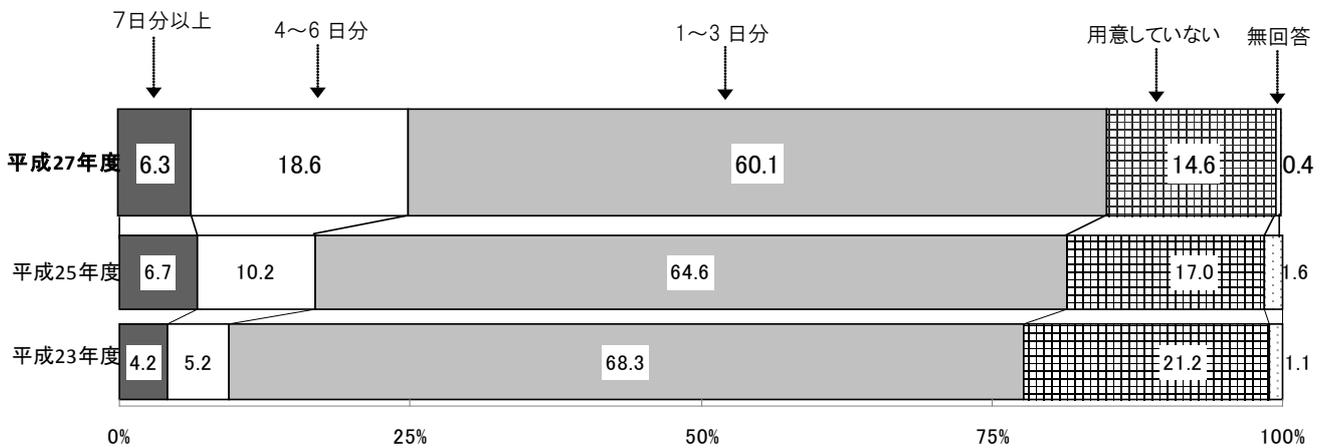
直径9mmの鉄筋が次の①、②、③のように入っているか。この点検は、塀を造った施工者などと相談して行って下さい。

- ① 鉄筋が、縦横とも80cm以下の間隔で入っているか。(縦筋は40cm間隔が望ましい。)
- ② 縦筋は、頂部の横筋、または、基礎の下側の横筋にかぎがけされているか。
- ③ 控え壁の鉄筋も①②のように入っているか。

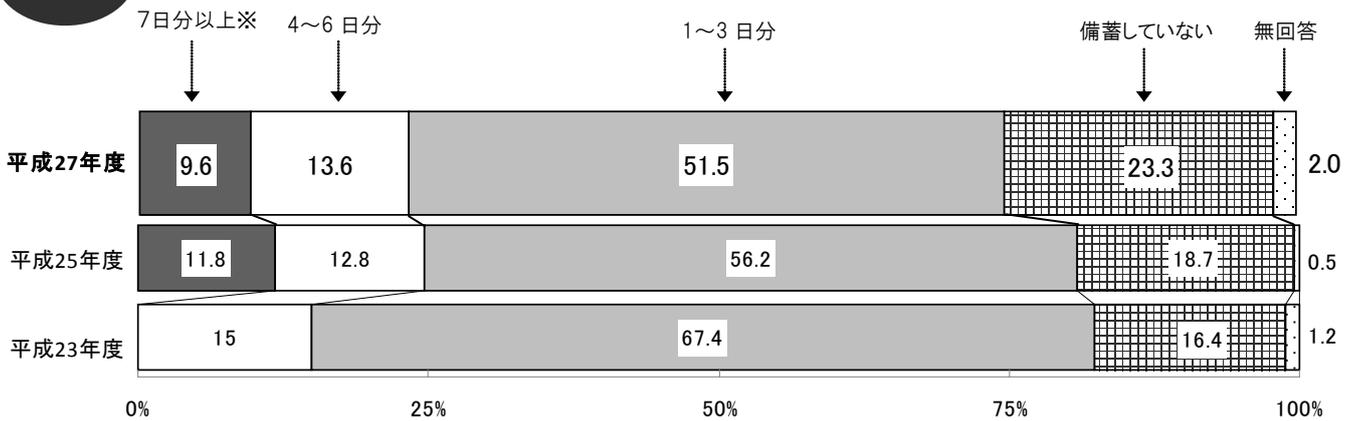
※ 点検結果に1つでも不適合があれば、そのブロック塀は危険性が大きく、改善する必要があります。
※ 市町によっては危険なブロック塀の撤去や改善に対し補助を受けることができます。

行政も、食料や飲料水をすぐには供給できません。 家庭での備えが必要です。

Q6-1 あなたのお宅では、災害時に利用できる食料として何日分を用意していますか。



Q6-2 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。



※飲料水の備蓄に関する設問では、「7日分以上」の選択肢は平成25年度から設定した。
※平成23年度の「4~6日分」は「5日分以上」、「4日分」の合計を指す。

これまで、飲料水は最低3日分、食料品は7日分と呼びかけてきました。しかし、南海トラフ巨大地震のような大規模災害では、被害が超広域にわたり、国や自治体の支援が遅れることが想定されます。

家庭で自活するためにも、水、食料とも1週間分以上の備蓄をお願いします。

飲料水

1週間の目安 (1人分)

1日3リットル×7日
=21リットル

食料

3食×7日=21食

カセットコンロ・カセットボンベ

あたたかい食事を調理するため備蓄しておくとうよいでしょう。

ボンベ1本で1.5リットルの
お湯が約10回つくれます。

ローリングストック法 (回転備蓄)

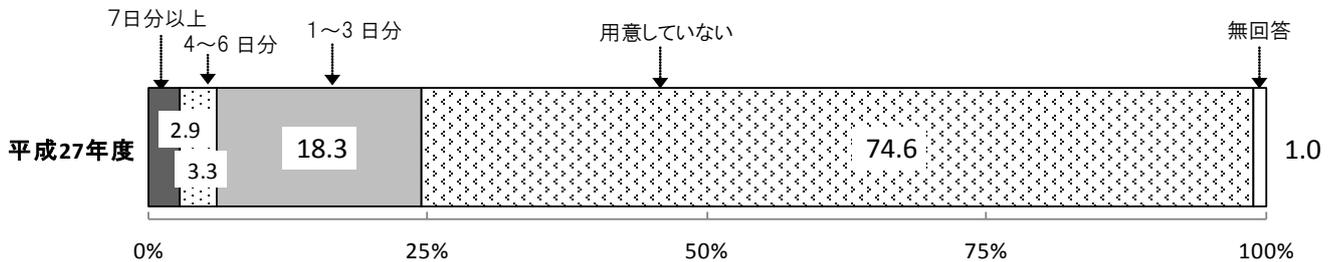
日常使う食材や非常用の食料品を、消費しながら備蓄していく方法。また、古いものから先に使うように収納を工夫すると上手に循環できます。

飲料水などは、家のスペースを活用し、備蓄していきましょう。

食べたら → 買い足す

停電、断水、給配水設備の損壊などで 水洗トイレは使えなくなります。

Q7 あなたのお宅では、何日分の携帯トイレ・簡易トイレを備蓄していますか。
ご家族ひとり1日あたり5回分で計算してください。



トイレの備蓄は重要です

大規模地震が起きると、停電、断水、給排水設備の損壊、汚水処理施設の機能停止などにより、多くの水洗トイレが使えなくなることが想定されます。

各家庭で携帯トイレ・簡易トイレを1週間分(最低3日分)
備蓄しておきましょう。

携帯トイレ、簡易トイレはカー用品店、ホームセンター、アウトドアショップ、インターネットなどで購入できます。

携帯トイレ・簡易トイレとは

洋式便器等にし尿を貯める袋を1回毎にかぶせ、使用するタイプや、し尿をためるタイプのものがあります。

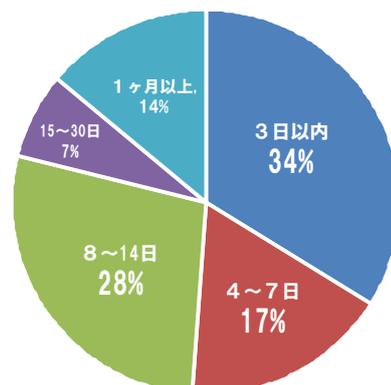
静岡県地震防災センター(静岡市駿河区駒形通)で展示していますので、是非お越し下さい。



仮設トイレが到着するまで時間がかかります。

仮設トイレを早期・大量に集める必要があること、家屋の倒壊によって不通となった道路を啓開する必要があることから、到着するまで時間がかかることが想定されます。

参考: 東日本大震災時に仮設トイレが避難所に行き渡るまでに要した日数

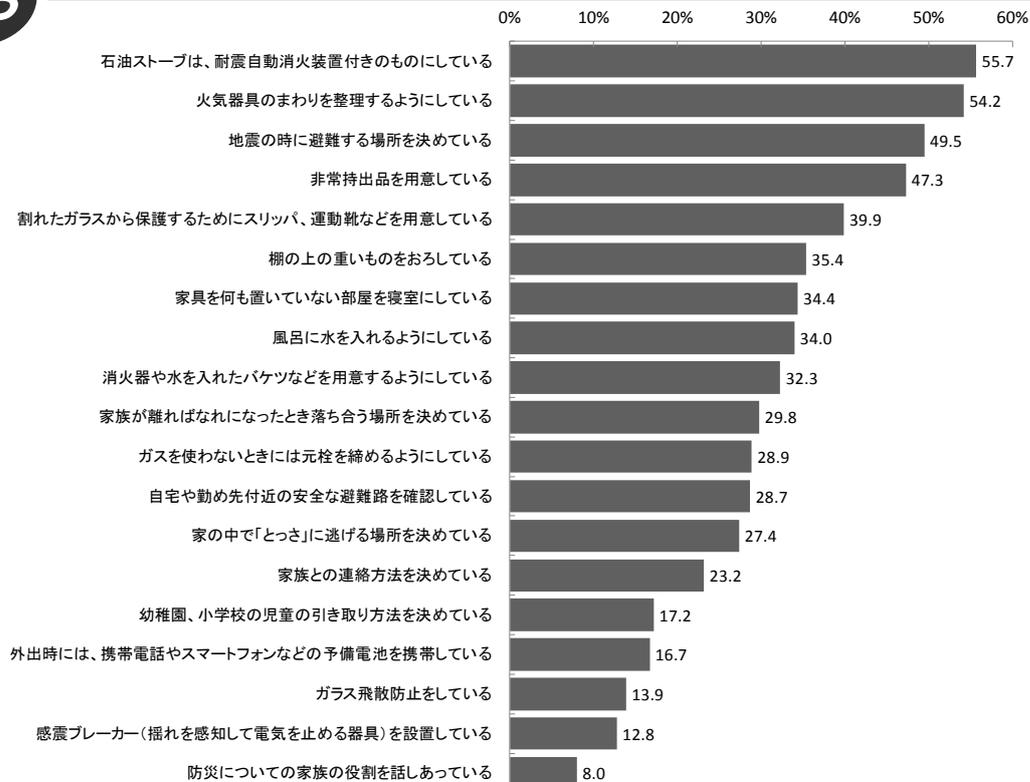


出典: 特定非営利活動法人日本トイレ研究所
「東日本大震災 3.11 のトイレー現場から学ぶー」2013

自宅から災害を発生させないために、 また、地震発生時にとまどわないように、 日ごろから防災対策を実施しておきましょう。

Q8

大規模地震に備えてあなたのお宅で行っているものは何ですか。



発災時には、家族が別々の場所にいたり、社会状況も混乱することが予想されます。次の表を参考に、ぜひお宅の行動計画を作ってください。

役割分担行動表

★集合場所・避難所

名前	ふだんの日の屋間にいる 可能性の高い場所	家族の集合場所	避難所
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>		
<input type="text"/>	<input type="text"/>		
<input type="text"/>	<input type="text"/>		
<input type="text"/>	<input type="text"/>		

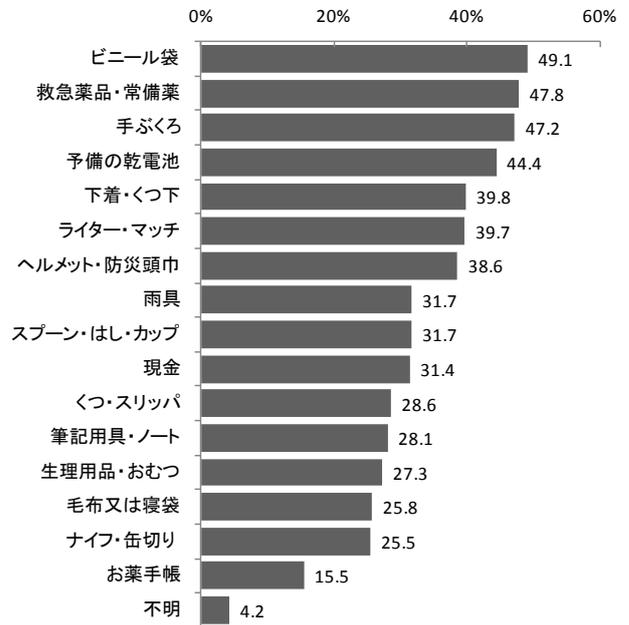
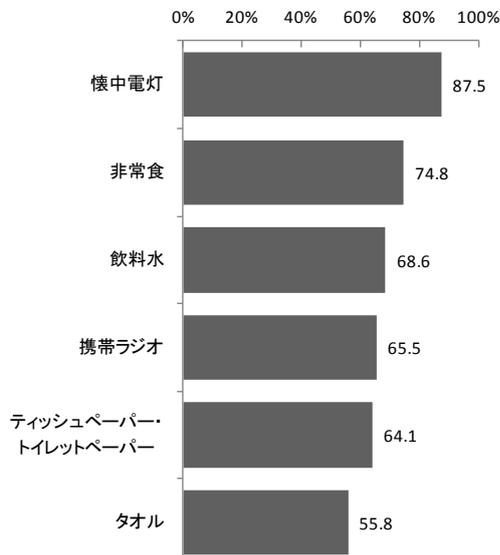
★家族の役割(事前の準備も含めて)

内容	名前	内容	名前	内容	名前	内容	名前
ラジオ・テレビで 情報を確認する	<input type="text"/>	出入口を確保する	<input type="text"/>	電気器具の コンセントを抜く	<input type="text"/>	非常持出し品の 確認をする	<input type="text"/>
火を消す	<input type="text"/>	消火器・バケツを 用意する	<input type="text"/>	棚の上から 物をおろす	<input type="text"/>	すぐに戻ってこれない家族 への伝言があれば書いて おく	<input type="text"/>
ガスの元栓、 プロパンガスボンベのバルブ を締める	<input type="text"/>	飲料水を確保する	<input type="text"/>	家具などを 倒れないようにする	<input type="text"/>	子供や老人の 世話をする	<input type="text"/>
危険物を安全な ところに移す	<input type="text"/>						

地震発生後のことを考えて、当面の生活に必要な物資を非常持出し用として準備してください。

Q9 非常持出品として何を用意していますか。

◇ 半数以上の方が準備しているもの ◇



点検しましょう

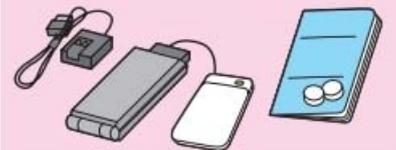
非常持出し品は、家族構成を考えて必要なものを用意しておきましょう。「わが家の非常持出し品リスト」を作り定期的に点検を行ない、非常持出し袋などに入れ、いつでも持ち出せる場所に置きましょう。また、備蓄しておき後で取り出す物と分けておきましょう。

非常持出し品チェックリスト（例）



東日本大震災ではこんなものが役立ちました！

携帯電話の充電器 お薬手帳のコピー



夜、寝ているときも

身近な所に、懐中電灯、ラジオ、携帯電話、靴を置いておきましょう。（素足では、割れたガラスでケガをします。）



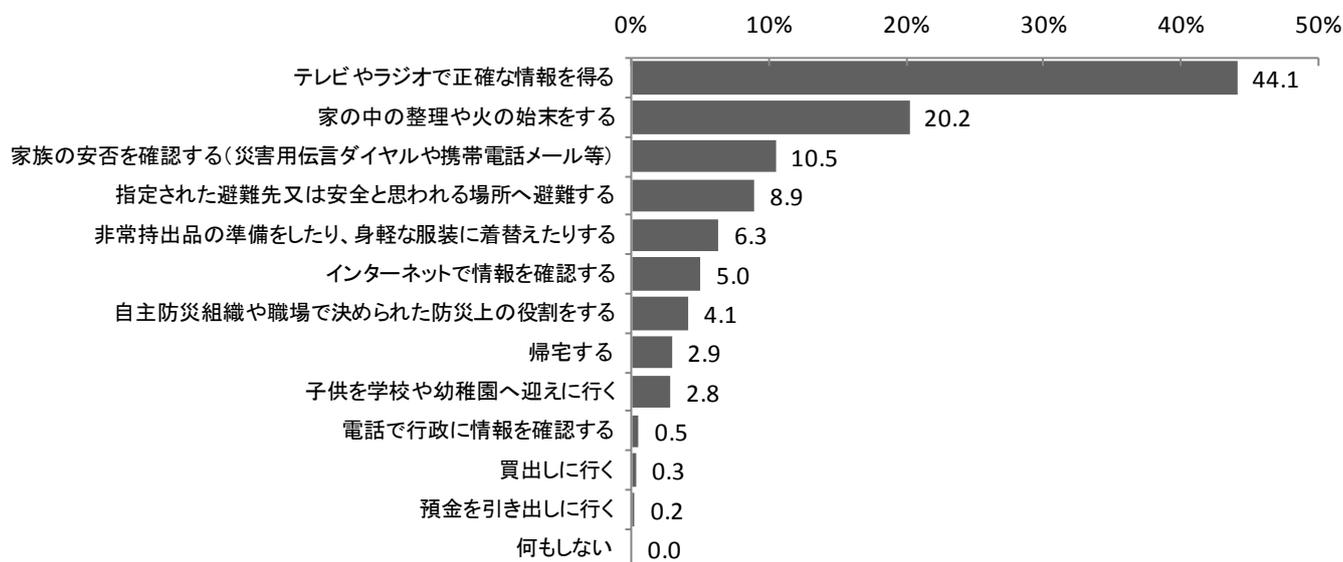
赤ちゃんのいる家庭では

ミルク、哺乳ビン、離乳食、スプーン、子ども用のお菓子、オムツ、洗浄綿、おふい紐、バスタオル又はベビー毛布、ガーゼ又はハンカチなどを追加。

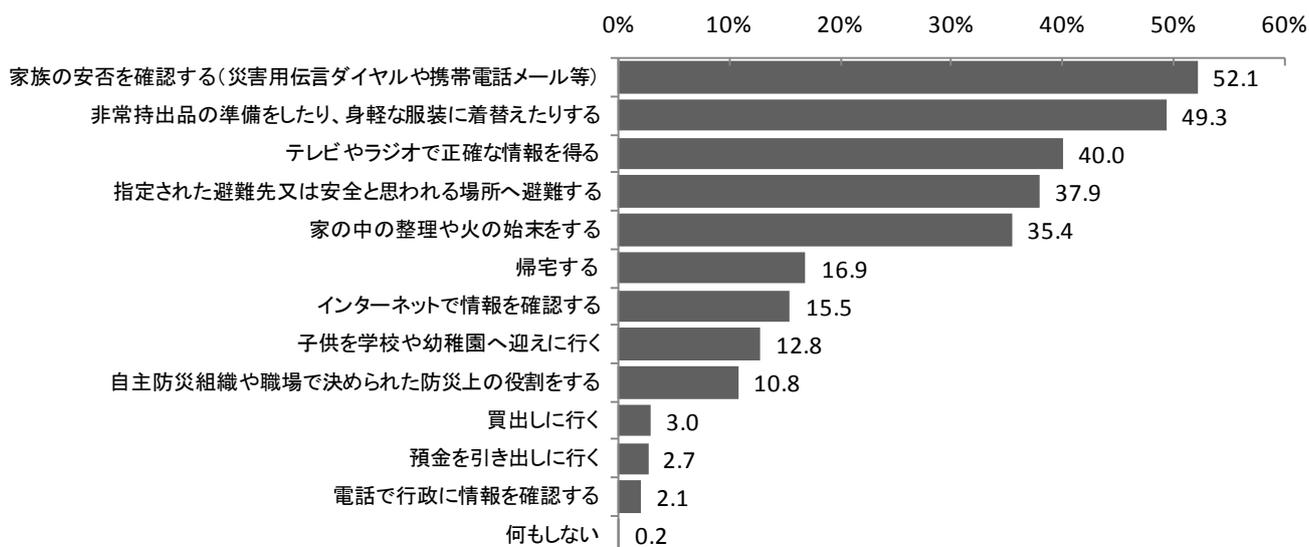


突然強い揺れを感じる大地震が発生した場合、 まず身の安全をはかりましょう。 揺れがおさまったら火の元を確認してください。

Q10-1 突然地震が起こった場合、揺れがおさまったらあなたは最初に何をしますか。



Q10-2 その次に何をしますか。



突然地震が起きたら？

1

- 激しい揺れは2～3分程続きます。あわてて外に飛び出さない。落ち着いて冷静に。
- 地震発生直後は、わが身の安全確保が最優先！
- 本震のあとは余震が続けて発生します。
- 小さなケガなら家族で手当て。



2

- 火源の周辺にものを置かない。
- 火災が発生しても、あわてずに初期消火。火元の安全確認。
- 近所に火の手は？消火活動は隣近所みんなに呼びかけ、協力を！



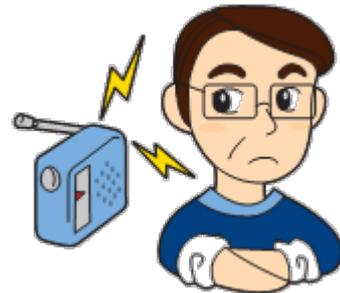
3

- 自宅を離れるときは家族の安否、行き先などは「伝言ダイヤル 171」又は「災害用伝言板」を利用。
- ガスの元栓を閉め、ブレーカーを切る。
- 戸締まりを忘れずに。



4

- デマに注意。最新の正確な情報入手しよう。
- 電話の使用は極力控える。安否情報は、「伝言ダイヤル171」（携帯電話は「災害用伝言板」）を利用。



5

- 避難所は共同生活の場。決められたルールを守り、協力と助け合い。
- 体の不自由な方や負傷者などに心遣いを。



6

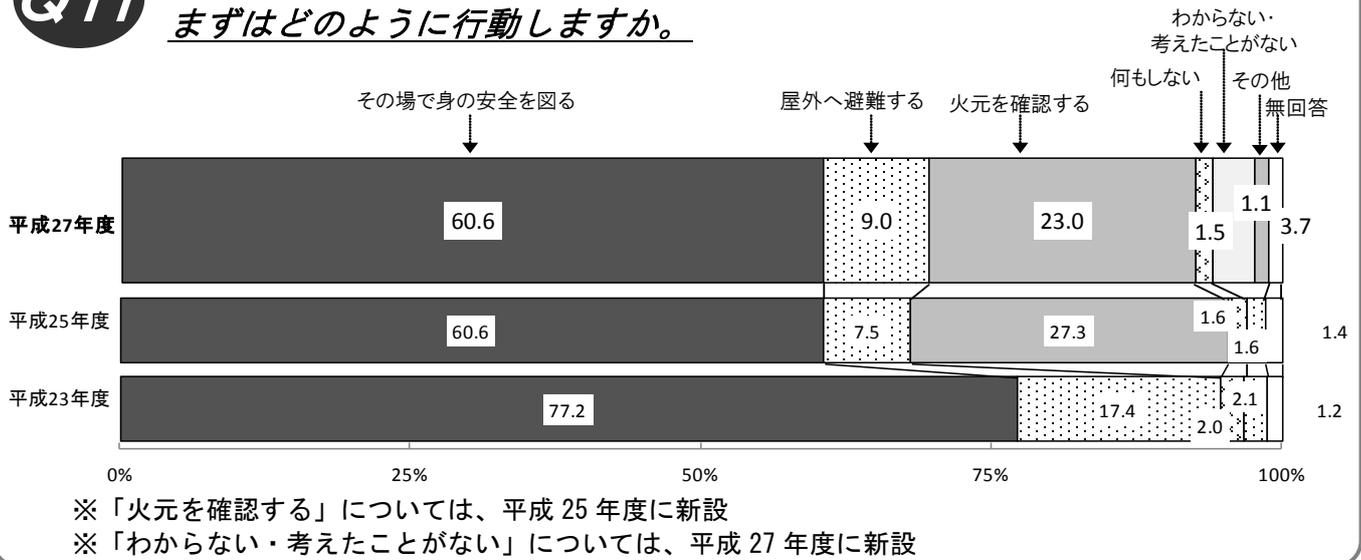
- 発災後数日は、物資の援助は期待できない。日頃の備えの大切さが分かる時。しばらくは非常持出し品や備蓄食で生活を。



緊急地震速報をご活用ください。

Q11

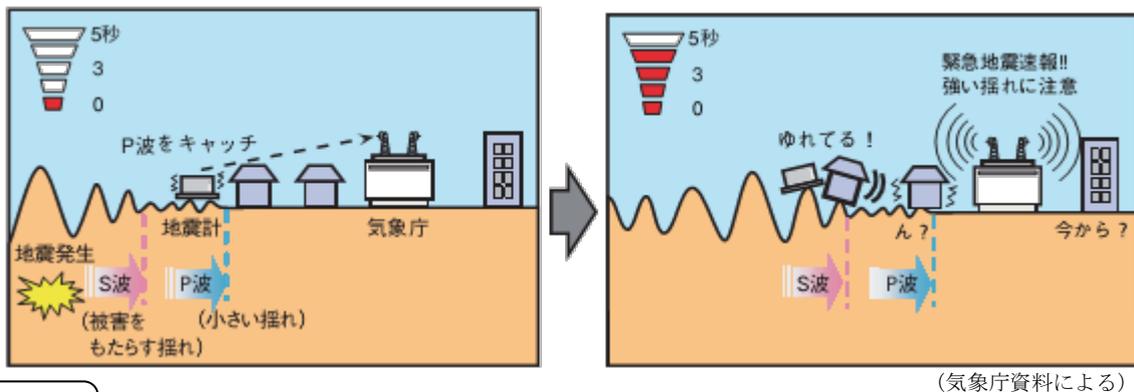
あなたは、屋内で緊急地震速報を受け取ったとき、
まずはどのように行動しますか。



緊急地震速報とは

緊急地震速報とは、地震による強い揺れが間もなく来ることをお知らせする情報です。大きな揺れが予想される地域に対して、テレビやラジオなどを通じて気象庁から発表されます。

緊急地震速報は、地震の揺れを震源に近いところで捉えてから発表される情報です。このため、緊急地震速報の発表から強い揺れが来るまでの時間は数秒から数十秒程度で、震源に近い場所では揺れに間に合わない場合があります。



家庭では

- ・頭を保護して丈夫な机の下などに隠れる
- ・あわてて外へ飛びださない
- ・無理して火を消そうとしない

人が大勢いる施設では

- ・係員の指示に従う、落ちついて行動
- ・あわてて出口に走り出さない

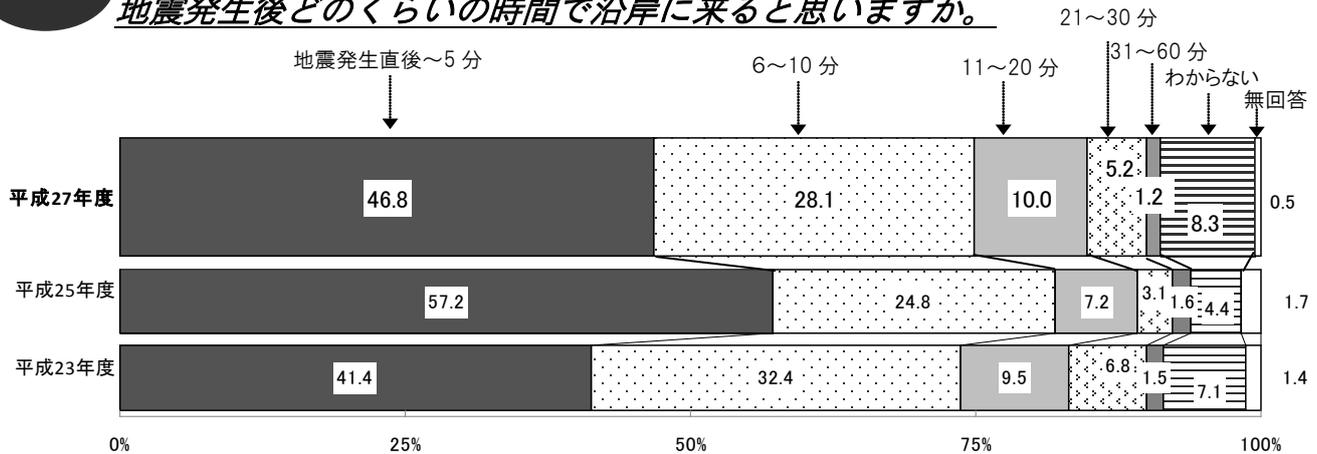
自動車運転中は

- ・あわててスピードをおとさない
- ・ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意を促す
- ・急ブレーキはかけず、緩やかに速度をおとす
- ・大きな揺れを感じたら、道路の左側に停止

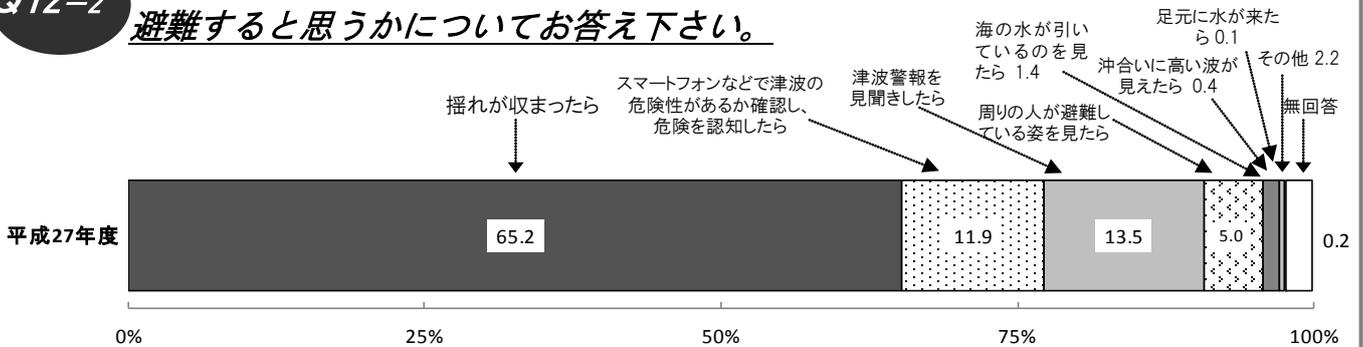
「利用の心得」
周囲の状況に応じてあわてずに
まず身の安全を確保する！

地震だ、津波だ、すぐ避難！

Q12-1 南海トラフ地震（東海地震）が発生した場合、津波は、一番はやいところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来ると思いますか。



Q12-2 あなたが海岸付近にいる際に突発的な地震があったとして、どのタイミングで避難すると思うかについてお答え下さい。



**津波が迫るスピードは速く、見てから避難しても間に合いません。
「地震だ、津波だ、すぐ避難！」を合い言葉に、
揺れが収まったら迷わず避難してください。**

- ・ なお、車での避難は渋滞を引き起こすため、原則禁止。徒歩で避難しましょう。

東日本大震災でのエピソード

2日前には逃げたのに・・・（宮古市 50代男性 建設会社社長）

震災の2日前の3月9日に三陸沖で地震が発生し、津波注意報が出されました。宮古の沿岸に住む80歳を超える私の叔母は、その注意報を聞いて逃げています。

逃げたけれども、そのとき津波は50cmしか来なかったのです。

私が一番ショックなのは、9日に逃げていたのに、11日には逃げなかったという事実。「この間とは違うから」と言っても、頑として言うことを聞かず、説得していたお嫁さんと子どもも亡くなってしまったのです。

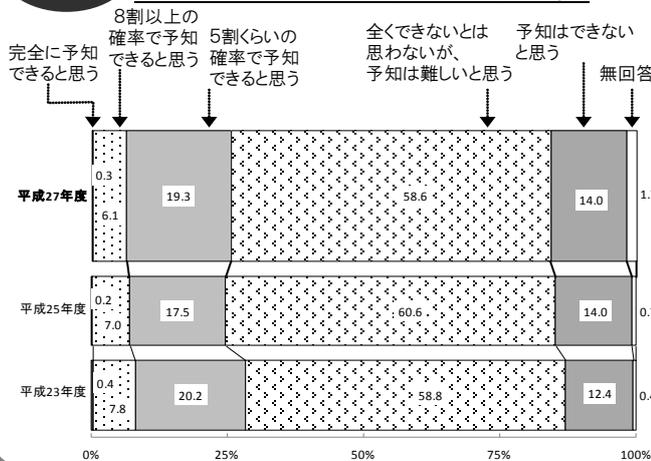
震災のあの日、地元のラジオ局は、地震発生後に気象庁が発表した「14時46分津波の第一波観測、大船渡で20センチ」を放送しています。

その低い観測値を聞いたから逃げなかったという話もありますが、私はそういうことではないと思います。海の近くで大きな揺れを感じたら、何度でも逃げて欲しかったなと思っています。

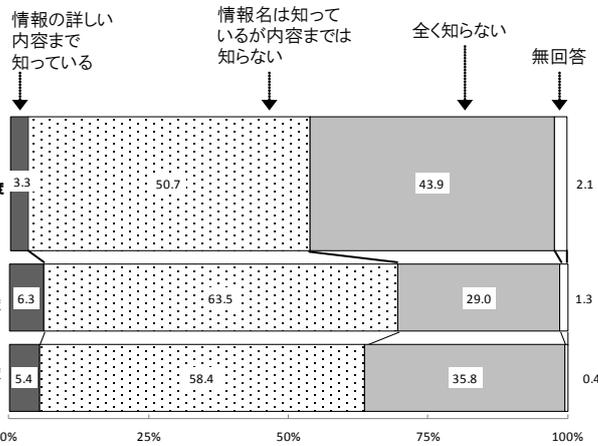
一日前プロジェクト(内閣府 2013)より

東海地震が予知できた場合、 発生危険度に応じて3種類の情報が発表されます。

Q13-1 あなたは、現時点で東海地震は予知できると思いますか。



Q13-2 東海地震に関連する情報をご存知ですか。



東海地震に関連する調査情報

【定例】 毎月の定例の判定会の調査結果を発表する情報。
 【臨時】 観測データに通常とは異なる変化が観測された場合、その変化の原因についての調査状況を発表する情報。
 ●家庭では・・・
 防災対応は特にありません。テレビ、ラジオなどの最新情報に気をつけて、平常どおりお過ごしください。

危険度アップ

東海地震注意情報

観測された現象が東海地震の前兆現象である可能性が高まった場合に発表される情報。
 ●家庭では・・・
 テレビ、ラジオなどの情報に注意し、念のために家の中や非常持出し品の再点検をしよう。

危険度アップ

東海地震予知情報 警戒宣言

東海地震の発生のおそれがあると認められ、「警戒宣言」が発せられた場合に発表される情報。
 ●家庭では・・・
 テレビ、ラジオなどの情報に注意するとともに、東海地震の発生に十分に警戒しよう。
 津波や山・がけ崩れの危険予想地域内であれば、すみやかに指定避難地に避難しよう。

※ 東海地震は必ず直前予知ができるわけではありません。

いつ地震が発生しても対応できるよう、日ごろから十分な備えを!!

また、公共交通機関・ライフラインの状況を確認しておきましょう!

東海地震に関連する調査情報発表時

平常どおり利用（使用）可能

東海地震注意情報発表時

平常どおり利用（使用）可能

電話：利用者の急増等により回線数がパンクする輻輳（ふくそう）等が生じた場合は、必要に応じ一般通話を制限する。
 鉄道：長距離夜行列車及び貨物列車は強化地域内へ進入しない。

東海地震予知情報発表（警戒宣言発令）時

電気・ガス：使用可能
 （できるだけ使わない。）

水道：使用可能
 （普段から水をためておく。）

電話：必要に応じ一般通話制限。

バス：付近の安全なところまで
 走行し、運行を中止する。

鉄道：最寄りの駅等付近の安全
 なところまで走行し、
 運転を中止する。

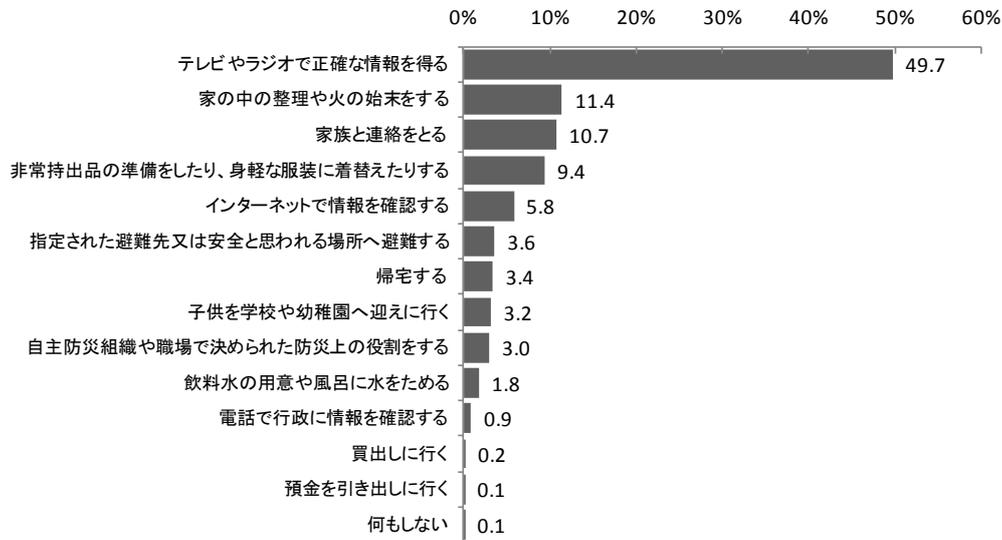
道路：緊急輸送路・避難路を
 確保するため交通規制
 がされる。車は徐行運転。

駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震・津波（レベル2）によるライフラインの復旧想定

電 気：発災直後に89%が停電、95%復旧に1週間程度
 ガ ス：都市ガスの76%が供給停止、95%復旧に4週間程度
 上水道：発災直後に96%が断水、95%復旧に5週間程度
 下水道：発災直後に51%が機能支障、95%復旧に5週間程度
 電 話：発災直後に固定電話の90%が不通、1日後に携帯電話基地局の82%が停波、95%復旧に2週間程度

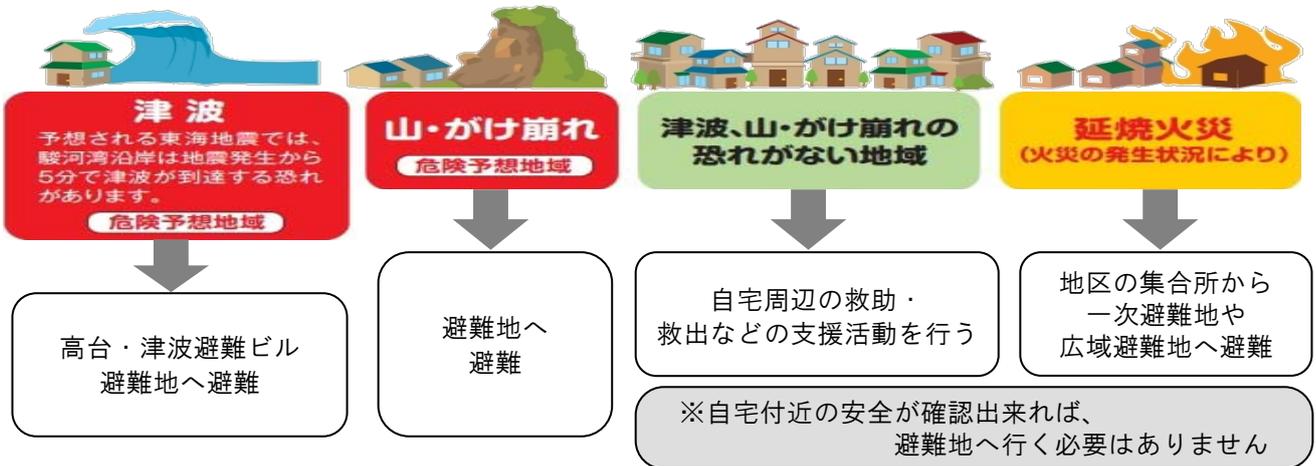
突然大きな地震が発生したら、警戒宣言が発令されたら、あなたの避難先は？

Q13-3 警戒宣言が発せられたとき、あなたは最初に何をしますか。



自分の地域で「どのような被害が発生するのか」確認しておきましょう！
市町で配布しているハザードマップや、インターネットで「静岡県統合基盤地理情報システム」を検索し、確認してください。

大きな地震が発生したら



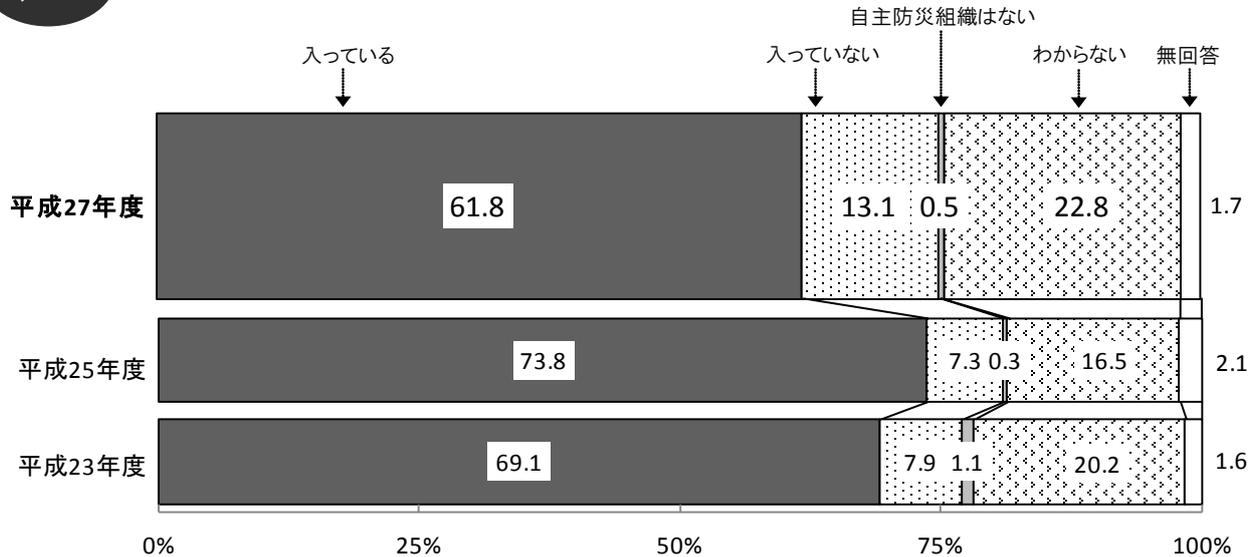
警戒宣言が発令されたら



避難地＝津波や山・がけ崩れの危険予想地域の住民等の避難のために市町が指定した避難場所
 集合所＝火災時の一時的避難や一次避難地へ移動するときの集合場所
 一次避難地＝火災時に広域避難地に到達するまでの中継拠点
 広域避難地＝火災拡大時の最終避難場所

誰もが自主防災組織の一員であることを自覚してください。 防災対策をすすめるためには、 地域内での連携が大切です。

Q14 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。



自らの命は自ら守る。自らの地域は皆で守る。県民一人ひとりが自主防災組織のメンバーです。

予想される南海トラフ地震等の大規模地震から自分や家族を守るためには、地震に備えて普段から十分な準備をしておくことが大切です。

しかし、大きな災害に立ち向かうときには、個人や家族の力には限界があります。隣近所の人たちが互いに協力し合い、防災活動に組織的に取り組むことが必要です。

災害発生時はもちろん、日ごろから地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織、これが**自主防災組織**です。

自主防災組織の活動

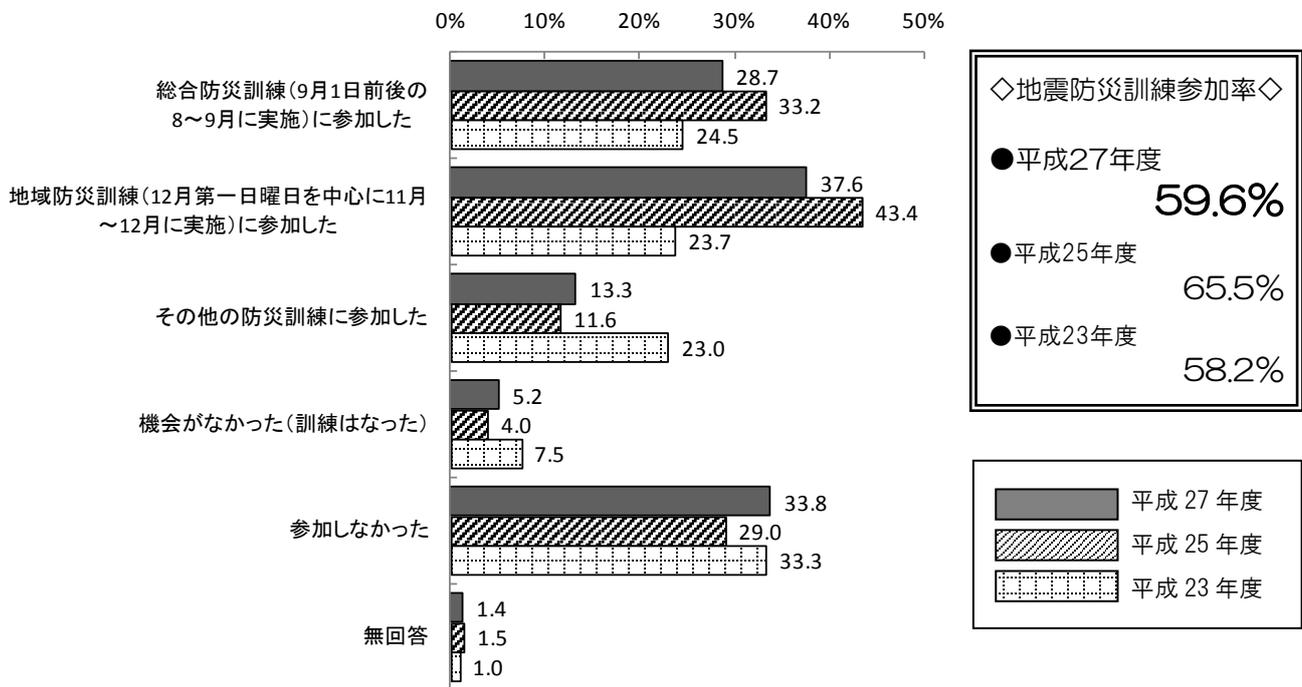
- | | | |
|-----|------------|------------------------------|
| 平常時 | 地域内の安全点検 | 巡回点検、危険個所の調査など |
| | 防災知識の普及・啓発 | 地域の災害危険度、家庭での対策、災害時要援護者の把握など |
| | 防災訓練 | 訓練の企画と実施、応急手当の講習など |
| 災害時 | 初期消火 | 出火防止対策の呼びかけ、初期消火、火災の警戒 |
| | 救出・救助 | 救出・救助、防災機関との協力 |
| | 応急手当・搬送 | 応急手当、家庭の医薬品の活用、搬送先病院の状況確認 |
| | 情報の収集・伝達 | 情報の収集伝達、デマ防止、防災機関への被害報告 |
| | 避難誘導 | 避難の呼びかけ、安全な避難誘導、避難者氏名等の確認 |
| | 避難所の運営・管理 | 物資配分の協力、炊き出し、生活ルールの調整・決定 |

地域には防災に携わる様々な人たちがいます。いざという時には、お互いが協力し合い、一丸となって防災活動に取り組みましょう。



隣近所で声を掛け合い、9月1日の総合防災訓練、 12月の地域防災訓練に皆で参加しましょう。

Q15 過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。



◆ 総合防災訓練（9月1日<防災の日>前後の8～9月に実施）

国・県・市町・各防災関係機関・自主防災組織が協力して実施します。東海地震注意情報発表時、警戒宣言発令時や発災時に、各家庭や地域の自主防災組織が計画している対策を行い、防災活動を身につけることを目標とします。

◆ 地域防災訓練（12月の第一日曜日<地域防災の日>を中心に11～12月に実施）

東海地震等の大地震が突然発生したことを想定して、自主防災組織を中心に地震発生後の避難、消火、救護など一連の対応訓練を行います。それぞれの地域の特性を生かした訓練を実施し、防災活動を身につけることを目標とします。

◆ 津波避難訓練（3月上～中旬<津波対策推進旬間>に実施）

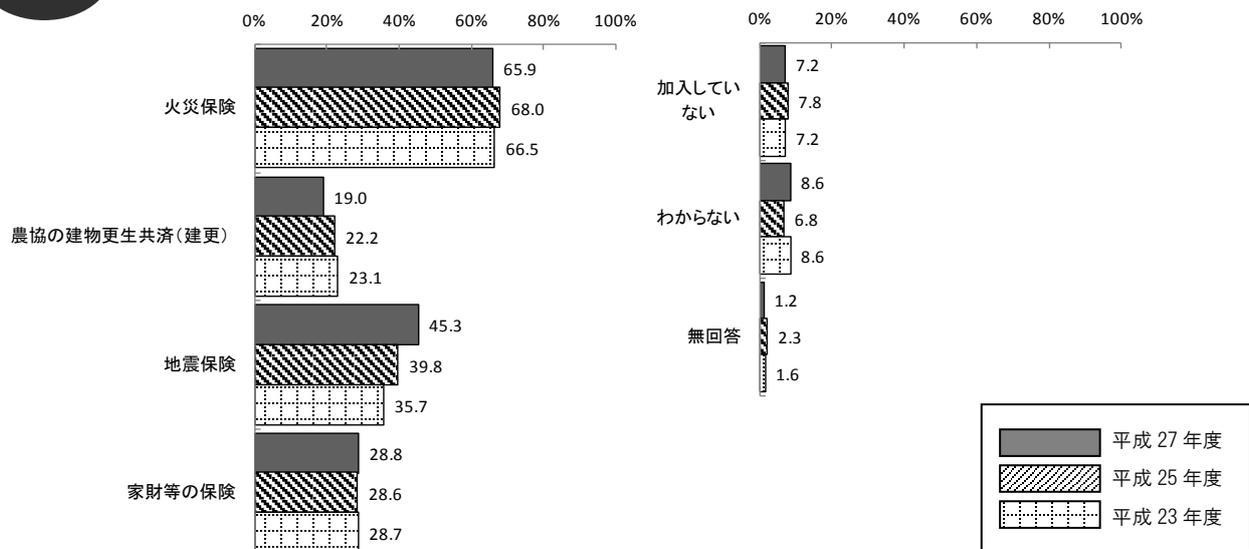
東海地震等の大地震が突然発生し、津波警報が発令されたことを想定して、県・沿岸の市町、各防災関係機関、自主防災組織が協力して実施します。住民に対する情報伝達、観光客等海浜利用者への避難指示、遭難者救助訓練、防潮水門閉鎖訓練等を実施し、防災活動を身につけることを目標とします。

◆ 個別訓練

各自主防災組織において情報の収集伝達・救出救助・初期消火など、個々の訓練を行い、それぞれの行動を身につけることを目標とします。

備えて安心！地震保険。

Q16 あなたのお宅はどのような建物や家財に関わる保険に加入していますか。



地震対策とともに、その先の生活のことを考えてみてください。

- ・ 建物の免震・耐震性能の応じて最大50%の割引があります。
- ・ 払い込んだ地震保険料が、その年の契約者の所得から控除されます。
(所得税では最高5万円・個人住民税では最高2万5千円)

損害の原因	火災保険	地震保険
地震・噴火・津波	×	○
上記以外の災害	○	×

重要！

- ・地震保険は、単独では加入できません。
- ・火災保険とセットで加入する必要があります。
- ・対象となるのは、建物と家財です。

コ ラ ム

通電火災をご存じですか？

通電火災とは、大規模地震が起きた直後に起こる火災ではなく、地震後の停電が復旧する際に起こる火災です。その原因は多岐にわたりますが、倒れたストーブに通電して引火、破損したコンセントや切れたケーブルから火花が散って引火などの原因が考えられます。

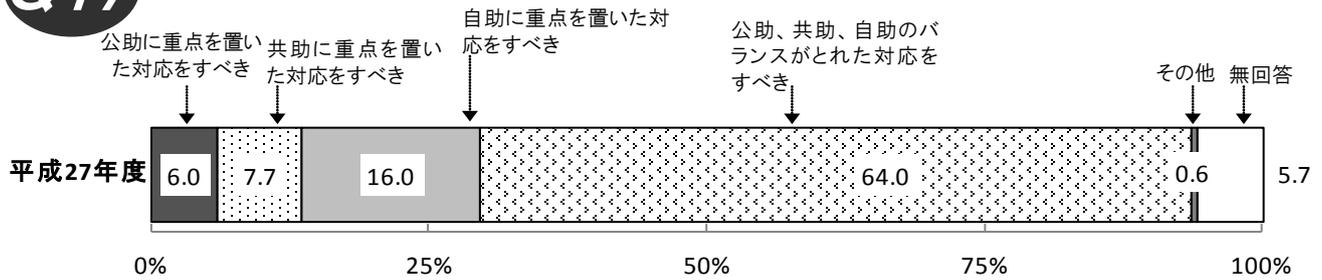
通電火災を防ぐためには

まず自分の身の安全を確保した後、使用中の電気器具のスイッチを切りコンセントを抜きましょう。また、破損がないか確認した後に使用をしましょう。万が一電気器具から火が出た場合は、むやみに水をかけたりせず、ブレーカーを切り、消火器を使用しましょう。

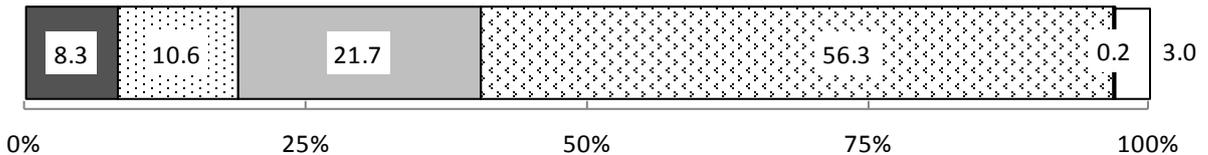
屋外に避難する場合は、**必ずブレーカーを切りましょう。**

「減災社会」の実現に向けて

Q17 重点を置くべき防災対策（自助、共助、公助）について



(参考) 「防災に関する世論調査」(内閣府2014)での国民に対する調査結果



●静岡県地震・津波対策アクションプログラム2013

静岡県では、第4次地震被害想定において推計された被害をできる限り軽減するため、津波対策をはじめ、建物被害、火災、山・がけ崩れ等の広範な地震対策の主要な行動目標として「地震・津波対策アクションプログラム2013」を策定しました。

- 基本理念：第4次地震被害想定を踏まえ、人命を守ることを最も重視し、地震・津波対策をハード・ソフトの両面から可能な限り組み合わせることで充実・強化することにより、想定される被害をできる限り軽減すること、「減災」を目指します。
- 基本目標：
 - 1 地震・津波から命を守る
 - 2 被災後の県民の生活を守る
 - 3 迅速、かつ着実に復旧、復興を成し遂げる
- 減災目標：想定される犠牲者を今後10年間で、8割減少させることを目指す。
※達成時期：平成34年度末
- 実施主体：「自助」・「共助」・「公助」の観点から、県が実施主体となるアクションはもとより、
県民、事業所、市町等もアクションの実施主体

減災を実現するためには、静岡県に關係する全ての人の取り組みが必要！

(アクションプログラムからピックアップ)

	アクション名	目標指標	数値目標	達成時期
自助に関するもの	住宅の耐震化の促進	住宅の耐震化率	95%	H32 年度末
	家庭内の地震対策の促進	家具類を固定(大部分固定)している県民の割合	100%	H34 年度末
共助に関するもの	地域防災訓練の充実・強化(自主防災組織)	自主防災組織における地域防災訓練の実施率	100%	H34 年度末
	避難所運営支援体制の充実・強化	地域住民・市町防災担当者、学校との連絡会議実施率	100%	H34 年度末
公助に関するもの	海岸堤防の耐震化	耐震化が必要な海岸堤防(108.6km)の整備率	60%	H34 年度末
	県管理橋梁の耐震対策	重要路線等にある橋梁(約570橋)の耐震化率	100%	H34 年度末

富国有徳の理想郷—しずおか



ふじのくに

Shizuoka Prefecture

静岡県危機管理部危機情報課

電話 054-221-3694

危機情報課メールアドレス

boujou@pref.shizuoka.lg.jp

危機管理部ホームページアドレス

<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/>

紙ヘリサイクル可

この印刷物は2,000部作成しています。